

聖書の教え

小 鮒 實 牧師

序

人間についての様々な問い

- ・人間とは何か？
- ・どこから来て、どこへ行くのか？
- ・人生（生きること）の目的は何か？
- ・なぜ生きていかなければならないのか？（自殺の問題など）
- ・その他

厭世観を語る聖書の言葉もある。

例、旧約聖書のコヘレトの言葉 1 章 2 節以下

「コヘレトは言う。なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい（空の空、空の空、いっさいは空である）。太陽の下、人は労苦するが、すべての労苦も何になろう。一代過ぎればまた一代が起こり、永遠に耐えるのは大地。日は昇り、日は沈み、あえぎ戻り、また昇る。風は南に向かい北へ巡り、めぐり巡って吹き、風はただ巡りつつ、吹き続ける。川はみな海に注ぐが海は満ちることなく、どの川も、繰り返すその道程に流れる。何もかも、もの憂い。語り尽くすこともできず、目は見飽きることなく、耳は聞いても満たされない。かつてあったことは、これからもあり、かつて起こったことは、これからも起こる。太陽の下、新しいものは何ひとつない。…… 知恵が深まれば悩みも深まり、知識が増せば痛みも増す。」

しかし...

- ・素直な人間の願望として

みんな、幸せ（幸福）を求めているのではないだろうか。

全ての人々が幸せになりたい。みんなが仲良く、平和（平安）に暮らしたい（生活したい）と思っているのではないだろうか。

しかし、現実には.....

- ・なぜ幸せになれないのか？

自分にとってよいと思うことが、必ずしも他者（相手）にとってよいとは限らない。

自分勝手な人間 - 自己中心性、エゴイズムの問題。

お互いが心から信頼できない人間関係、人間社会。

お互いの信頼関係の欠如から、争いや戦争が起こってくる。

これでは幸せになれない。

これを罪（原罪）の問題と教えているのが聖書である。

聖書の教え

1 . 天地の造り主なる神（創造論）

人間（人生）に関する様々な問いについて。

この世界（この世）に関する様々な問いについて。

神による「天地の創造」という視点から光を投げかけているのが聖書。

創世記 1 章 1 節以下

天地を創造された神（創造主）について

「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深遠の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」 こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。」(創世記 1:1-5)。

ここには次のことが語られている。

- ・無からの創造
- ・宇宙の第一原因（根本原因）
- ・「初めに、神」という所から、すべてのものが出発する。
- ・言葉による創造 人格的な神が示されている（創造主）

人間の創造と祝福について

創世記 1 章 2 6 節以下

「神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚。空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」(創世記 1:26-28)

ここには次のことが語られている。

- ・被造物（造られたもの）としての人間
人間は神によって造られた存在である。
造られた者としての価値がある（存在価値）。
造られた者としての意味や目的がある（人生の意味や目的）。
- ・祝福「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。…… すべて支配せよ。」
人間の存在を肯定。
神の愛を受けて自然界を管理（支配）する責任がある。
自分勝手に、自然界を支配することではない。
自然をいたわり、自然の恵みを感謝し、自然界のすべてと共に生きる生き方。
自然破壊、環境破壊、公害などの否定

- ・人間の創造（続き）

創世記 2 章 7 節以下

「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。」(創世記 2:7-8)

ここには次のことが語られている。

- ・神の息（霊、命）を吹き入れられて、生きる者となった人間。
- ・神は生命を与えるもの。
- ・人間は神によって生かされている。
- ・神はエデンの園（喜びの園の意味）を造られた。

- ・エデンの園（喜びの園）は理想郷（ユートピア・理想世界）である。

創世記 1 章 3 1 節

「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」。

- ・エデンの園（ユートピア・神の国）の完成、それが神の願いである。
- ・しかも、それは永続性を持つ。
- ・そのために、男と女を造られた。子孫による継続。

創世記 2 章 1 8 節

「主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者（パートナー）を造ろう（エバ（命）の創造 3:20）」。（創世記 2:18）

「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」（創世記 2:24）

- ・結婚を祝福される神。

（まとめ）

- 1 神は、すべてのもの（人間を含む）の創造主である。
- 2 神は、エデンの園（理想世界）を造ろうとされた。
- 3 それは、神を中心とした世界であり、神と人間、自然界が創造の秩序の中に生きていく世界である。言い換えれば、愛と平和の世界（神と人間、自然界が共に喜びを共有する世界）を造ること。これが神がこの世を造られた創造目的である。

- ・神様の願われる世界（エデンの園）

神が神として崇められる世界（神の栄光が現される世界）

神の愛と恵みを受け、人間は感謝と喜びをもってそれに応えていく（応答・礼拝）

人格的交わり（父と子の関係（親子関係） 神の子）。人間はロボットではない。

- ・神の愛に基づく自然支配・管理。御心に適った自然開発・利用。

・主の祈り「願わくは、御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。……」

人間の現実

神はいるのかいないのか？

神が分からない現実（神の御旨・神の御心が分からない現実）

ここに人間の不幸がある。

神が分からない。だから、人間（自分）を中心とする歩みを始める。

エゴイズム、信頼関係の欠如。ここから、争い、不和が生じる。不幸。

- ・どうしてこうなってしまったのか？

聖書は「人間の墮落」（墮落論）として教える。

2 . 人間の現実（墮落論）

- ・失樂園の物語（人間の墮落）

創世記 3 章 1 節以下

「主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だ

けは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。」(創世記 3:1-6)

神は一つだけ戒め(掟・命令)を人間に与えておいた。

創世記 2 章 16 節以下

「主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」(創世記 2:16-17)

食べると必ず死ぬ

(神の戒めを破る 神との関係が切れる 死を意味する)

人間の自由意志の問題

神の戒めを守って、生きる道がある。

神の戒めを破って、死ぬ道がある。

人間には、選び取る(選択する)自由がある。

人間は神のロボットではない。神との人格的交わりを持つ(人格関係)。

神が創造された世界

善も悪もない世界(善とか悪とかを考える必要のない世界)。

強いて言えば、善の世界と言えよう。

ところが、現実には「善と悪」がある。

善と悪の発生はどうして起こったのか?

「善悪の知識の木」 - 何が善であり、何が悪であるかを示すもの(知識)

神様の戒めを守り、神様の願われること(御心)を行うこと。

これが「善」である。(神様中心の世界)

神様の戒めを破り、神様に反逆(対立)して生きること。

これが「悪」である。(人間中心の世界)

自分中心に生きる。ここから「的外れな生き方」(罪)が生じる。

「罪」という言葉は、的をはずす、的外れという所から来ている。

蛇(悪魔)に誘惑され、禁断の木の実を食べてしまった人間。

墮落。罪人(つみびと)になってしまった。

墮落の結果、どうなってしまったか。

1 創造の秩序の破壊

・神様を恐れるようになる(神様との関係が切れる)

創世記 3 章 8 節以下

「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」(創世記 3:8-10)

ここには次のことが語られている。

- ・ 神を恐れ、神から離れようとする（神を避けようとする）人間の姿
- ・ 責任転嫁（人のせいにする）。「ゴメンナサイ」が言えない人間の姿。
悔い改めず、かえって自分を正当化する人間の姿（自己正当化）

アダム「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」（創世記 3:12） 神に責任がある？ 女が悪い？

エバ「蛇がだましたので、食べてしまいました。」（創世記 3:13）

蛇が悪い？ 蛇に責任を転嫁する。自分が悪かったとは言わない人間の姿。

2 結局、彼らは「エデンの園」を失う（失楽園） 正義の神

「主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこからとられた土を耕させることにされた。」（創世記 3:23）

3 神様との生きた関係が切れてしまう（神様を見失う、神様が分からない）

神様を中心とする生き方から人間中心の生き方へ

的外れな生き方（人生）

諸悪が発生（殺人、姦淫、盗み、偽証、諸欲、争い、戦争など）

（まとめ）

聖書の「罪」（原罪）とは、このような人間の姿（現実）のこと。

「罪」（刁ハッター 左ハマルティア） - 「的をはずす」という意味。

詩編のことば（78編56節以下）

「彼らはいと高き神を試み、反抗し、その定めを守らず、先祖と同じように背き、裏切り、欺く弓で射た矢のようにそれて行き、異教の祭壇に仕えて神を怒らせ、偶像を拜んで神の激情を引き起こした。」（詩編 78:56-58） 正義の神

矢を射るとき、的に向かって正確に矢を放ったとしても、また矢がどんなに精巧なものであったとしても、弓そのものが「見掛け倒しのいいかげんなもの」（欺く弓）であるならば、その矢は「的をはずれて」しまう。的を射ることができない。「弓自体に問題がある」ことを教えている。

神は人間をご自身の像（かたち）に似せて創造され、人間に自由意志を与えられた。これは人間が自主的（主体的）に神様を愛することを期待されたからである。しかし、人間は神を無視し、自由意志を用いて神に反抗した。この人間の神に対する反抗、反逆、不従順、不信仰を「罪」（的外れな人間のあり方）という言葉で聖書は教える。

パウロの告白

ローマの信徒への手紙 7章 15節以下

「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。…… そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。…… 善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。

…… わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。」（ロマ 7:15-24）

3 . 救いの歴史 (救済論)

旧約聖書から

人間の墮落

創世記 6 章 1 1 節以下

「この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。」(創世記 6:11-12)

・このような人間 (墮落した人間) をそのままにしておいてよいのか？

神の嘆き

創世記 6 章 5 節以下

「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も (創造の秩序が破壊されたから？)。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」しかし、ノアは主の好意を得た。」(創世記 6:5-8)

後悔される神様・心を痛める神

(人を造ったこと、神の御意に合わない現実、創造の秩序が破壊されている現実)

正義の神 神の審判 (裁き) - ノアの洪水

創世記 6 章 1 3 節

「神はノアに言われた。「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ。わたしは地もろとも彼らを滅ぼす」(神の審判)

正義の神...罰せずにはいられない

(創世記 6:13)

神の契約

創世記 6 章 1 8 節以下

「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。また、すべて命あるもの、すべて肉なるものから、二つずつ箱舟に連れて入り、あなたと共に生き延びるようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。」

(創世記 6:18-19)

ノアとその家族 (妻子・嫁たち、息子 - セム、ハム、ヤフェト) 動物たち

神の命令に従う 箱舟による救済

洪水 (40 日 40 夜) による審判 神の悔い改め (後悔する神)

「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい。」(創世記 8:21)

契約のしるし - 「虹」

創世記 9 章 1 2 節以下

「あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々としえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これ

はわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。わたしが地の上に雲を湧き起こらせ、雲の中に虹が現れると、わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。…」(創世記 9:12-17)

「バベルの塔」の話(創世記 11:1-9)

・バビロン市にあったマルツクの神殿。エ・サギラの北方エテメナキ(天地の基なる家の意)と呼ばれるジグラット?

・民族(人種)によって言葉が違うことを説明したお話?

なぜ民族によって(国によって)話す言葉が違うのか?

Cf. ペンテコステの出来事(使徒言行録 2:4)

聖霊の働き - 弟子たちは、ほかの国々の言葉で話し出した。

アブラハムの召命 - 神の選び

創世記 12章 1節以下

「主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にしあなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」アブラムは、主の言葉に従って旅立った。」(創世記 12:1-4)

(アブラム 75歳の時)

神の約束(創世記 15章) - 子孫の繁栄、祝福

「アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」(創世記 15:6)

契約と割礼(創世記 17章)

(アブラム 99歳の時)

アブラム(高められた者) アブラハム(多くの国民の父) 名前の変更

サライ(?) サラ(女王、王妃、女主人)

(新しい名 神の祝福をともなう?)

子孫の繁栄、祝福の約束 しかし、……

「アブラハムはひれ伏した。しかし笑って、ひそかに言った。「百歳の男に子供が生まれるだろうか。九十歳のサラに子供が産めるだろうか。」(創世記 17:17)

「割礼」 - 契約のしるし(創世記 17:10-11)

「アブラハムが包皮に割礼を受けたのは、九十九歳、息子イシュマエルが包皮に割礼を受けたのは、十三歳であった。」(創世記 17:24-25)

創世記 18章 19節

「わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」(創世記 18:19)

アブラハム - イサク - ヤコブ(神様を信じる家系) 族長

ヤコブ(イスラエル 創世記 32:29、35:10) からイスラエル民族誕生

ヤコブ(名前の変更 イスラエル) イスラエル民族誕生

「ヤボクの渡し」での出来事。「何者かが夜明けまでヤコブと格闘した。」

「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」(創世記 32:29)

「神は彼に言われた。「あなたの名はヤコブである。しかし、あなたの名はもはやヤコブと呼ばれない。イスラエルがあなたの名となる。」神はこうして、彼をイスラエルと名付けられた。」(創世記 35:10)

イスラエル(神の戦士、神は力強い、神は治められる等の意味)

ヘブライ人という呼び名が、血縁的・民族的であるのに対して、イスラエルという呼び名は信仰的・告白的意味を持つ。

ヤコブの子孫(イスラエル民族)

12部族(ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イサカル、ゼブルン、
ヨセフ、ベニヤミン、
ダン、ナフタリ、
ガド、アシェル

(創世記 35:22-26、出エジプト 1:1-2)

ヨセフ物語(創世記 37章、39章以下)

ヨセフの夢、エジプトに売られたヨセフ、エジプト生活、ファラオの宮廷の責任者になる。飢饉。

イスラエルの人々、エジプトに下る(創世記 46章)。エジプトに滞在
エジプトでのイスラエル人がどうなったか(出エジプト記に記されている)

ヨセフの死後、イスラエルはエジプトで奴隷化する。

モーセ(預言者、指導者)によるエジプトからの逃亡(民族の解放)

紀元前 1290年頃、または、1250年頃と言われている。

シナイ山での契約

出エジプト記 19章 3節以下

「ヤコブの家にこのように語りイスラエルの人々に告げなさい。あなたたちは見たわたしがエジプト人にしたこと また、あなたたちを鷲の翼に乗せてわたしのもとに連れて来たことを。今、もしわたしの声に聞き従いわたしの契約を守るならばあなたたちはすべての民の間においてわたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエルの人々に語るべき言葉である。」(出エジプト記 19:3-6)

十戒の授与(出エジプト 20章 1 - 17、申命記 5章)

モーセの十戒 律法

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。(神の自己紹介)

あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

あなたはいかなる像も造ってはならない。

あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。

安息日に心を留め、これを聖別せよ。

あなたの父母を敬え。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

隣人に関して偽証してはならない。

隣人の家を欲してはならない。

から までは、神との関係が語られる

から までは、人と人との関係（共同体の規範）

出エジプト記 3 4 章 2 7 節以下

「主はモーセに言われた。「これらの言葉を書き記しなさい。わたしは、これらの言葉に基づいてあなたと、またイスラエルと契約を結ぶ。」モーセは主と共に四十日四十夜、そこにとどまった。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、十の戒めからなる契約の言葉を板に書き記した。」（出エジプト記 34:27-28）

シナイ契約の成立

申命記 7 章 6 節以下

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。」（申命記 7:6-8）

荒野の放浪（およそ 40 年間。アモス 2 章 10 節、詩編 95 編 10 節）

カナン定着 - イスラエル民族の具体的な歴史が始まる。

紀元前 1250 年頃、または、1200 年頃と言われている。

12 部族連合時代（士師時代 およそ 200 年間）

大士師(7 名) オトニエル(士 3:7f.)、左利きのエフド(士 3:12f.)

シャムガル(士 3:31)、女預言者デボラとバラク(士 4:1f.)前 1120

ギデオン(エルバアル(バアルは自ら争う士 6:32))(士 6:1f.)

エフタ(士 11:1f.)、サムソン(士 13:1f.)

小士師(5 名) トラ、ヤイル(10:1-5)、イブツァン、エロン、アブドン(12:8-15)

統一王国（国家） サウル - ダビデ - ソロモン

紀元前 1020 年頃（1012-1004） サウル王

紀元前 1000 年頃（1004 - 998） ダビデ王

紀元前 961 年頃（965 - 926） ソロモン王

ソロモン王国分裂（紀元前 922 年、または、926 年）

北イスラエル王国（紀元前 722 / 721 年に滅亡、アッシリア帝国による）

南ユダ王国（紀元前 587 年、バビロニア帝国による）

バビロン捕囚時代 - 約 50 年間（紀元前 587 - 538）

この頃、共同体維持のために、聖書の編集が少しずつなされる。

ペルシア王キュロスによる帰還命令（紀元前 538 年）

第 2 神殿の再建、ユダヤ教の成立（モーセ五書公布）紀元前 400 年頃

南ユダ王国の子孫が、ユダヤ人と呼ばれるようになる。

その後、エジプト王国、シリア帝国、ローマ帝国の支配を受ける。

その間、ハスモン王朝（紀元前 142 - 63） 政治的独立

預言者（ネビーイーム）の働き

4大預言書...イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、12(小)預言書

12小預言書...ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書

ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書

救いの歴史（救済史） - 罪人を救うための歴史 - 旧約聖書

神様はイスラエル民族を通し、救いの歴史（救済史）を展開

その中心は「律法と預言者」であった。

・旧約（古い契約） - 新しい契約が与えられたので「旧約」と呼ばれる

（図）

【神様】（神様が神様として崇められる世界） 神様の栄光

律法（戒め・掟） 強制的なもの（義務）、しんどさ

預言者 自己満足（守れる、守った）

喜び・感謝は生まれて来ない

守れない人たち（軽蔑の対象）「地の民」

選民・異邦人（差別）

【人間（イスラエル民族）】

委託 恵み （神様の愛に基づく支配・管理）

愛 応答 （御心に適った開発・利用）

【万物（自然界）】

旧約の限界

律法（神様の意志による教えと戒め）（出エジプト 20:22-23:33など）

十戒その他の戒め（道徳律、祭儀規定、社会法規、種々の勧告）

律法を守る...神様の選びの愛と契約に応える行為（応答行為） 律法主義

律法主義...神様から与えられた律法(教え・戒め)を守ることによって義とされる。

（正しい者とされる、良しとされる、救われる）

律法主義の限界...強制的なもの（義務感）、しんどさがある

守れる者（優越感）、守れない者（劣等感）

差別（人を分け隔てる）、自己満足、優越意識、軽蔑

選民・異邦人の区別 差別

「実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯もありません。」

（ロマ 4:15）

ガラテヤ 3章 19節

「では、律法とはいったい何か。律法は、約束を与えられたあの子孫が来られるときまで、違犯を明らかにするために付け加えられたもので、天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものです。」（ガラテヤ 3:19）

ガラテヤ 3章 23節以下

「信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視され、この信仰が啓示されるようになるまで閉じ込められていました。こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。」（ガラテヤ 3:23-24）

4 . メシア (キリスト) 待望・メシア預言

メシア待望 (メシア預言)

民族の荒廃と試練 (捕囚) 外国勢力による抑圧、支配

メシア (「油注がれた者」(キリスト)の意)の待望

理想的な王 救いをもたらす「救い主」を待ち望む

イザヤ 1 1 章 1 節以下

「エッサイの株からひとつの芽が萌えいで、その根からひとつの若枝が育ち、その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、恐れ敬う霊。彼は主を恐れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず、耳にするところによって弁護することはない。弱い人のために正当な裁きを行い、この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち、唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。正義をその腰の帯とし、真実をその身に帯びる。狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる。その日が来れば、エッサイの根は、すべての民の旗印として立てられ、国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く。」(イザ 11:1-10)

ミカ 5 章 1 節

「エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのためにイスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。」

マラキ 3 章 1 9 節以下

「見よ、その日が来る、炉のように燃える日が。高慢な者、悪を行う者は、すべてわらのようになる。到来するその日は、と万軍の主は言われる。彼らを燃え上がらせ、根も枝も残さない。しかし、わが名を恐れ敬うあなたたちには義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように躍り出て跳び回る。わたしが備えているその日に、あなたたちは神に逆らう者を踏みつける。彼らは足の下で灰になる、と万軍の主は言われる。わが僕モーセの教えを思い起こせ。わたしは彼に、全イスラエルのため、ホレブで掟と定めを命じておいた。見よ、わたしは大いなる恐るべき主の日が来る前に預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に、子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもってこの地を撃つことがないように。」(マキ 3:19-24)

新しい契約の預言 (エレ 31:31-34、エレ 37:26-28)

エレミヤ 3 1 章 3 1 節以下

「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだもの(シナイ契約)ではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った(イスラエルの不信仰)と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って

教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。」(エミヤ 31:31-34)

エゼキエル 37章 26節以下

「わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らの住居を定め、彼らを増し加える。わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く。わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。わたしの聖所が永遠に彼らの真ん中に置かれるとき、諸国民は、わたしがイスラエルを聖別する主であることを知るようになる。」(エゼキエル 37:26-28)

(まとめ)

契約(旧約)の授与 律法
旧約聖書の歴史 不信仰の歴史
新しい契約への希望(メシア待望)

新約聖書の学び

5. イエス・キリスト(預言の成就)

・新約(新しい契約)はどのようにして与えられたのか(新約聖書ではない)

イエス・キリストの派遣

イエス=キリスト(メシア(王、祭司、預言者 救い主))

神様の啓示

ヘブライ 1章 1節以下

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子(イエス・キリスト)によってわたしたちに語られました。」(ヘブライ 1:1-2)

ヨハネ 14章 6節以下

「イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。」(ヨハネ 14:6-11)

イエス様を通して、「父なる神様を知る」

イエス様を見る = 「父なる神様を見る」(神の啓示としてのイエス様)
「見えない神」の見えるかたち(イエス様) 受肉
イエス様 神であり、人である

律法について(旧約との関係)

マタイ 5章 17節以下

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。はっきり言っておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。」(マタイ 5:17-18)

イエス様は律法を完成するために来られた(旧約の廃棄ではない、完成のため)
どのようにして(何によって)完成するのか。律法の完成 愛によって

ローマ 13章 9節以下

「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」(レビ 19:18)という言葉に要約されます。愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。」(ローマ 13:9-10)

愛がある時、姦淫出来ない、殺すことが出来ない、盗むことが出来ない。

愛は律法を包み込む。律法の上にあると言ってもよい。

愛は律法を全うすると言える。

「律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。」(ガラテヤ 5:14) 律法は愛によって全うされる(完成される)

「隣人を自分のように愛する」愛はどのようにして現れたか(示されたか)。

1ヨハネ 3章 16節

「イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました(十字架の死)。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。」(1ヨハネ 3:16)

イエス様の愛...命を捨ててまで愛して下さる愛(自己犠牲の愛、アガペー)

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(ヨハネ 15:13)

このように教えられたイエス様は、それを十字架で実行された。

それはただイエス様の愛というだけではなく、神様の愛を示すもの

神様はイエス様を通して、神の愛を啓示された。

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(1ヨハネ 4:10)

「実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれませんが。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」(ローマ 5:6-8)

「いまだかつて神を見た者はいません」(1ヨハネ 4:12)。 見えない神

見えない神様(人間にはよく分からない神様)を、イエス様が「愛をもって」、私たちに分かるように示してくださった。(イエス様 = 神の啓示)

(図)

【神様】(神様が神様として崇められる世界) 神様の栄光

イエス・キリスト (和解者・仲保者) 【聖霊】 = 神様の力・働き
(救い主)

十字架 復活 罪の赦し
悔い改め
バプテスマ (洗礼)

【人間 (教会)】

委託 恵み (神様の愛に基づく支配・管理)
愛 応答 (御心に適った開発・利用)

【万物 (自然界)】

神様との関係の回復 - 救い - 和解の成立

ローマ 5 章 9 節以下

「それで今や、わたしたちはキリストの血 (十字架) によって義とされたのですから、キリストによって神の怒り (裁き) から救われるのは、なおさらのことです。敵であったときでさえ (神様との関係が切れていたとき - 罪人) 御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。」 (ローマ 5:9-10)

イエス・キリストについて (確認)

フィリピ 2 章 6 節以下

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」 (フィリ 2:6-11)

1ヨハネ 4 章 13 節以下

「神はわたしたちに、御自分の霊を分け与えてくださいました。このことから、わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくださることが分かります。わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証ししています。イエスが神の子であることを公に言い表す人はだれでも、神がその人の内にとどまってくださり、その人も神の内にとどまります。わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。」 (1ヨハネ 4:13-17)

6 . 聖 霊

聖霊の働き

「聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。」

信仰告白 聖霊の働き（信仰を与える力） （1コリント 12:3）

聖霊は、イエス様がキリスト（救い主）であると信じさせる力

「自分の意志で信じる（決断する）」 人間の力

「信じさせられる」（恵みとして受けとめる） 聖霊の力、働き

7．三位一体

三位一体（三一神の信仰）

神は「父・子・聖霊」という三つの位格(ペルソナ)と一つの実体において存在するという教理

「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」(マタイ 28:19)

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。」(1コリント 13:13)

8．キリスト者の生活 具体的には、生活綱領

キリスト者の生き方

神様との関係の中で、人生（この世・人間関係）を生きていく

【最も重要な掟】（マタイ 12:28-34、ルカ 10:25-28）

マタイ 22章 34節以下

「ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい（縦の関係）。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい（横の関係）。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」(マタイ 22:34-40)

イエス様はこの掟を実際に生きられた（成就、完成）

十字架の死に至るまで従順だった（神に従う、神を愛する）(ヨハネ 2:8)

私たちのために死なれた（罪人の身代わり＝十字架 人を愛する）

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ 15:13)

キリストにならいて（イミタチオ クリスティ）- キリストを模範とする

十字架（縦と横）を生きる「生き方」（敬神愛人）

神様を愛する生き方（縦の関係）（敬神）

「何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。」(1コリント 10:31)

「そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。」(コサライ 3:17)

人を愛する生き方（横の関係）（愛人）

「キリスト教的な生活の規範」(ローマ 12:9-21)

ローマ 12章9節以下

「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」

(その他)

「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。」(1テモ 2:4-5)

「神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。」(ヘブライ 4:13)

「自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にはありません。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。」(1ヨハ 1:8-9)

キリスト教の教え(一言で言えば)

神様に造られた(命を与えられた)人間が、神様に造られた(命を与えられた)人間として、神様に造られた(命を与えられた)人間らしく生きる、そういう「生き方」を教えている。

神様は、ご自身の独り子、イエス・キリストを十字架につけ、私たちが当然受けなければならない罪の刑罰をキリストに負わせ、罪の清算をつけてくださいました。それこそ「ひとり子を賜ったほどにこの世を愛してくださった」(ヨハ 3:16)神様の深い愛なのです。私たちがこの神様の愛にふれ、自分の罪深さを知って悔い改め、神様の愛を受け入れ、神様に従う決心をする時、私たちの罪がゆるされ、神様の子どもとなる特権が与えられ、神様の前に真実の人間となることが出来るのです。私たちが十字架にかけられ、復活されたキリストを信じて、古い自分に死に、新しい生命に生きるのです。 洗礼(バプテスマ)

9. 洗 礼(バプテスマ)

洗 礼(死と復活) - 「救い」の意味

古い自分(の生き方)に死に、新しく創造されること(永遠の命に生きること)

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」(2コリント 5:17) 救い 新しい人生の出発

永遠の命...「永遠なる神様との交わりのうちにあるいのち」(地上・天上)

悔い改める(方向転換)

素直に信じ、感謝して受け入れる

イ．バプテスマ（洗礼）に至るまでの手続き

- ・バプテスマ（洗礼）志願書の提出
- ・受洗準備会
- ・教会役員会の承認（受洗準備会があとになる場合もある）
- ・信仰告白式（役員会の時、または受洗前に告白する）
- ・バプテスマ（洗礼式） - 公の礼拝において執行 -
- ・教会員原簿に登録

ロ．洗礼式の時の「問」と「答」(新しい式文より)

誓約

問 () あなたは聖書に基づき、日本基督教団信仰告白にいいあらわされた信仰を告白しますか。 日本基督教団信仰告白の学びの必要性

答 告白します。

問 あなたは神の前に自らの罪を悔い、主イエス・キリストの十字架のあがないによってその罪をゆるされ、救われたことを確信しますか。

罪の悔い改めと救い（恵みの確認） 日本基督教団信仰告白の学び

答 確信します。

問 あなたは聖餐を重んじて誠実にこれにあずかり、主の再び来りたまうことを待ち望みつつ、主の日の礼拝を守ることを約束しますか。 また、この教会の会員としてふさわしい生活をし、教会の定めにしたがって忠実にその責任を果たすことを誓約しますか。

聖餐、再臨、主日礼拝、教会員としての義務と責任

日本基督教団信仰告白の学びの必要性

答 主の助けによって誓約します。

クリスチャンになるとは、自分の罪を悔い改めて、キリストの救いを受け入れることです。それは決断であり、行動であり、新しい人生の出発です。 生活綱領参照

10．信仰告白

日本基督教団信仰告白

我らは信じかつ告白す。

信じること（心で信じる） 頭で信じるのではない。頭 = 理解する

「信じる事は、決断であり、行動であり、頭だけの理解ではない」

告白することの大切さ（口で、またその他で（口の不自由な方））

「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に

言い表して救われるのです。」(ロマ 10:9-10)
信じていなければ、告白できない。

旧新約聖書は、ア. 神の靈感によりて成り、イ. キリストを証し、ウ. 福音の真理を示し、
エ. 教会の拠るべき唯一の正典なり。されば聖書は聖霊によりて、神につき、救いにつ
きて、全き知識を我らに与ふる神の言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり。

聖書(旧新約聖書)をどのように受け止めるかの問題

ア. 聖書が神の靈感によって成ったものであると信じますか。

イ. 聖書はキリスト(イエス様がキリスト(救い主)である事)を証するものであると
信じますか。

ウ. 聖書は福音の真理を示すものであると信じますか。

エ. 聖書を教会の拠るべき唯一の正典(聖典)であると信じますか。

聖書は神様や救いについて私たちに十分な情報を与えている神の言であると信じます
か。 神様の言葉(御言葉)としての聖書(神様の御心、御旨を語っている)

聖書を私たちの「信仰と生活との誤りなき規範」として使っていますか。

聖書に基づく信仰生活(=日常生活)の問題

主イエス・キリストによりて啓示せられ、聖書において証せらるる唯一の神は、父・
子・聖霊なる、三位一体の神にていましたまふ。御子は我ら罪人の救いのために人
と成り、十字架にかかり、ひとたび己を全き犠牲として神にささげ、我らの贖ひとなり
たまへり。

主イエス・キリストを神様を啓示した神の子と信じますか。

(主イエス・キリストを神様と信じますか)

聖霊は神様の具体的な働きとして、神様であると信じますか。

父なる神様、子なるキリスト、聖霊を三位一体の神様と信じますか。

イエス様が十字架にかけられたのは、私(たち)の罪のためであると信じますか。

イエス様の十字架によって私たちの罪が贖われたと信じますか。

神様は人間をご自身の像(かたち)に似せて創造され、人間に自由意志を与えられまし
た。これは人間が自主的に神様を愛することを期待されたからです。しかし、人間は神様
を無視し、自由意志を用いて神様に反抗しました。この人間の神 様に対する反逆、不従
順、不信仰を「罪」(的外れな人間のあり方)といいます。このように罪深い人間はこの
ままの状態では、聖にして義なる神様の前に審かれ なくてはならないのです。

このような状態の人間を、そのままに受け入れることは、神様の義が許しません。そう
かといって、そのままにしておくことは、神様の愛が許しません。そこで聖にして義なる
神様が罪人の人間を赦し救うために、神様の独り子、イエス・キリストを十字架につけ、
私たちが当然受けなければならない罪の刑罰をキリストに負わせ、罪の清算をつけてくだ
さったのです。それこそ「ひとり子を賜った ほどにこの世を愛してくださった」(ヨハ 3:16)
神様の深い愛なのです。

私たちがこの神様の愛にふれ、自分の罪深さを知って悔い改め、神様の愛を受け入れ、
神様に従う決心をする時、私たちの罪がゆるされ、神様の子どもとなる特権が与えられ、
神様の前に真実の人間となることが出来るのです。私たちが十字架にかけられ、復活され

たキリストを信じて古い自分に死に、新しい生命に生きるのです。

神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信ずる信仰により、我らの罪を赦して義としたまふ。この変らざる恵みのうちに、聖霊は我らを潔めて義の果を結ばしめ、その御業を成就したまふ。

神様が私たちを選んで下さったのは、神様の恵みだと信じますか。

イエス様をキリスト（私(たち)の救い主）と信じますか。

イエス様をキリスト（救い主）と信じる信仰によって、私たちは罪赦され義とされていると信じますか。

私たちを潔め、義の果を結ばせるのは聖霊の働きであると信じますか。

聖霊の働きによって、神様はその御業を成就しようとしておられる事を信じますか。

教会は主キリストの体にして、恵みにより召された者の集いなり。教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝へ、バプテスマと主の晩餐との聖礼典を執り行ひ、愛のわざに励みつつ、主の再び来りたまふを待ち望む。

教会（エクレシア）を主イエス・キリストの体であると信じますか。

（あなたは教会の一員であるという自覚をもっていますか。）

教会は神様の恵みによって召された集い（共同体）であると信じますか。

あなたは公の礼拝を守っていますか。

あなたは福音を正しく宣べ伝えていきますか。

あなたはバプテスマを受け、主の晩餐（聖餐）に与っていますか。

あなたは愛のわざに励んでいますか。

あなたは主イエス・キリストの再臨を待ち望んでいますか。

我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、使徒信条を告白す。

代々の聖徒と共に - 歴史の中にある教会、普遍性、連帯性
使徒信条（世界教会信条、基本信条）の告白

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまへり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。

アーメン

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

「神」

創造主信仰 被造物 (創世記 1 章 ~ 2 章)

全能 (の父)

「人間にはできないことも、神にはできる」(肋 18:27)

「神は何でもできる」(マコ 10:27)

父 人間の父親 (起源) 人間は兄弟姉妹

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。

「イエス・キリスト」

神の独り子 人であり、神である

我らの主 私たちが従うべき者

イエス = キリスト (救い主)

主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまへり、

「キリストの生涯」

誕生 苦難 (十字架) 死 復活 昇天 (神の右の座、権威の象徴)

かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。

「再臨、最後の審判」

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。

「聖霊」 聖霊の働き

「教会」 公同の教会 (神様 (聖霊) が働く場所) キリストの体

「聖徒の交わり」 神様のものとされた人間 横の関係

「罪の赦し」 神様との関係が回復

「身体のよみがへり」 復活の希望

「永遠の生命」 希望 (永遠を目標とする)

有限な人間が「永遠を生きる」(永遠なるもの (神様) との関係の中に生きる)

アーメン (「然り、本当にその通りである」の意)

11. キリスト者の具体的生活 (続き)

生活綱領

われわれは、神の恵みにより父と子と聖霊との名においてバプテスマをうけ主の体なる教会に入れられた者であるから、すべての不義と迷信とをしりぞけ、互いに主にある兄弟姉妹の交わりを厚うし、常に神の栄光のあらわれるように祈り、つぎのことを相共につとめる。

1. 教会の秩序を守り、その教えと訓練とに従い、聖日礼拝・祈禱会その他の集会を重んじ、聖餐にあずかり、伝道に励み、時と財と力とをささげて教会の維持発展につ

くすこと。

- 2．日々聖書に親しみ、常に祈り、敬虔・純潔・節制・勤労の生涯を全うすること。
- 3．家庭の礼拝を重んじ、家族の和合を尊び、子女を信仰に導き、一家そろって神につかえること。
- 4．互いに人格を重んじ、隣人を愛し、社会の福祉のために労し、キリストの正義と愛とがあまねく世に行われるようにすること。
- 5．神の御旨に従って、国家の道義を高め、国際正義をの実現をはかり、世界平和の達成を期すること。

願わくは神、われわれを憐れみ、この志を遂げさせたまわんことを。 アーメン